

科目名	人間工学特論Ⅱ		D1-206	担当教員名	岡 耕平
単位数	1単位		選択	配当年次	1年次・第2 Semester(後半)
曜日・時限	金曜日・6限目			教室	オンライン授業
授業概要	<p>「人間にタスクを合わせる」という人間工学の考え方、及び原理原則について講義する。本講義では受講者の身の回りにあるタスクや環境を題材に取り上げ、教員と学生あるいは学生同士の双方向の取り組みを通じてタスクや環境を評価し、改善するための考え方や方法論について講義する。</p>				
到達目標	<p>本講義の受講生は、職場の安全と健康に関わる作業環境や作業条件および満足できる職務のあり方を理解し、安全管理や心身の健康障害の予防等の職場のマネジメントを実践できる応用知識を身につけることができる。</p>				
回	日程	見出し	内 容		実践的な 授業方法
1	11/26	作業を分析する(1)	受講者が日常的に携わる作業の課題を分析するための方法論や原理原則について、講師が概説した上で全体で討議する。[グループディスカッション]		○
2	12/3	作業を分析する(2)	前回の講義を踏まえ、受講者が自らの身近な作業を分析した結果を発表し、それを基に講師が解説を加える。[プレゼンテーション]		○
3	12/10	作業環境を分析する(1)	受講者が日常的に携わる作業環境とその負荷を分析するための方法論や原理原則について、講師が概説した上で全体で討議する。[グループディスカッション]		○
4	12/17	作業環境を分析する(2)	前回の講義を踏まえ、受講者が自らの身近な作業環境及び負荷を分析した結果を発表し、それを基に講師が解説を加える。[プレゼンテーション]		○
5	1/7	コミュニケーションを分析する(1)	受講者が日常的に携わっているコミュニケーションにおける課題を分析するための方法論や原理原則について、講師が概説した上で全体で討議する。[グループディスカッション]		○
6	1/14	コミュニケーションを分析する(2)	前回の講義を踏まえ、受講者が日常的に携わっているコミュニケーションにおける課題の分析結果を発表し、それを基に講師が解説を加える。[プレゼンテーション]		○
7	1/21	エラーを抽象化する(1)	受講者が実際に経験した事故を例にとり、その背景にある作業・作業環境・コミュニケーションの問題について整理した上で、エラーの抽象化について討議する。[グループディスカッション]		○
8	1/28	エラーを抽象化する(2)	前回の講義を踏まえ、受講者が整理し抽象化したエラーの分析結果を発表し、それを基に講師が解説を加える。[プレゼンテーション]		○
キーワード		作業研究、対人コミュニケーション		履修条件	「人間工学特論Ⅰ」を履修済のこと
教材等	教科書(要事前購入)	教科書は特に指定しない。講義で使用する資料は適宜配付する。			
	参考書(任意購入)	『オキュペーショナルエルゴノミクス』エディエンヌ・グランジャン(著) ユニオンプレス 2002年 『組織事故とレジリエンス』ジェームズ・リーズン(著) 日科技連出版社 2010年			
成績評価方法(%) [評価のポイント]		①講義内で指示する課題への回答とディスカッション(40%)、②レポート(60%) [科学的研究方法及び人間工学の原理原則の理解の程度を評価する。]			
授業時間外で必要な学修		次回授業に用いるための素材となるものの収集			
学生へのメッセージ		人間工学の知識はみなさんの生活及び就労環境の改善に大変役に立つものです。			

※ 授業の日程については変更する場合があります。